

令和7年度白山市子ども会議意見書への回答

過ごしやすい街づくりグループ

中高生が満足できる居場所について

- ①コミュニティセンターを登録制に、自分たちでルールを決めて無料で使用できるように。
- ②コミュニティセンター内に自由に遊んだり、集中して勉強できる居場所を設ける。

《回答》 現在、コミュニティセンターでは、通年または夏休みなどの期間に施設を開放しているところが22か所あります。

ただし、小学生のみを対象としているところもあるため、全てのコミュニティセンターで、中高生も利用できる居場所としての施設開放が実現できるよう、施設の利用状況を考慮しながら、施設管理者へ協力をお願いしていきます。

- ③小学校（グラウンド、体育館、多目的室など）を放課後や休日に使用できるように。

《回答》 施設の使用に関しましては、責任者のいる団体が事前に施設利用申請を行っていただくことにより、皆さんが安心して利用できるよう努めています。安全面や施設の保護に配慮する必要があるため、現在のところ自由に使用することは難しい状況です。

空き家の活用方法について

- ④美川地域での活用を市内で広めるための仕組みをつくる。
- ⑤専門家に話を聞き、小中学生の考えを深めていく。

《回答》 昨年度に引き続き、地域と美川小学校6年生が共同で取り組む空き家問題解決プロジェクト「美川つながりカフェ」が、昨年11月28日に実施されました。また、12月7日には地域住民を対象とした実施報告も行われました。

3月20日に開催予定の「みんなで創る、地域を繋ぐ～28 コミュニティフェスタ～」では、美川まちづくり協議会が空き家の活用方法を盛り込んだポスターを展示し、市民に広く周知することを計画しています。

まち発展プロジェクトグループ

地産地消について

- ① イベントをもっと広める。中学生も周知に協力する。現在のイベントを他の季節や他の地域でも開催する。
- ② 中高生も学校を利用して開催したり、地域のイベントにブースを出展する。

《回答》 白山市では、地元の食材や特産品を楽しめるイベント（「白山めぐみ博」など）を市内のいろいろな場所で開催しています。こうしたイベントの情報は、市のホームページのほか、市公式 LINE やメールなどで皆さんにお知らせしています。

また、県立翠星高校の生徒の皆さんが、地元の企業と一緒に新しい商品を開発したり、「マルシェ・ドゥ・ハクサン」というイベントでお店を出して販売したりするなどしています。

これからも、SNS などを使ってイベント情報をわかりやすく発信していきます。また、翠星高校との協力による商品開発やイベントへの出店も引き続き積極的に行っていきたいと考えています。

観光に関連した広報について

- ③ AI のアプリを作って観光客の好みに合わせたガイドを普及させる。中高生はプログラミングを学び、開発に協力する。
- ④ イベント用の HP などを作成する。中高生は様々なイベントに参加し、中高生目線の意見を発信する。

《回答》 白山市単独での AI 観光案内サービスは運用していませんが、石川県を含む 6 府県の自治体で収集した観光イベント情報を統合する AI 観光案内サービス「めぐろっと」が利用できます。その中には白山市の観光スポットも提案先に含まれています。

白山市の観光情報発信については、白山市観光連盟公式 HP「うらら白山人」や、白山市観光連盟公式インスタグラム、フェイスブック、X を使って行っています。

また、白山市においてイベント用のホームページや LINE アカウントを作成していますので、適時 LINE、市メールなどによりイベント等の周知を行っていきます。

市では中高生も楽しめるイベントを開催していますので、ぜひ参加されて感想などお寄せいただけるとありがたく思います。

地球と私たちの生活を保護するグループ

ゴミ問題・環境について

- ①自販機やスーパーの分別回収所のとりにペットボトルを洗う装置を設ける。

《回答》 スーパーや自販機の回収ボックスは事業者がリサイクルのために設けているもので、個々に洗浄装置を設けることは費用面や管理するうえで課題があります。

ペットボトルはリサイクルの過程でも洗浄されるので、念入りに洗う必要はありませんが、回収ボックスに入れるときは、以下の点を守っていただくことで、リサイクルの品質向上につながります。

- ・キャップはラベルを外す。
- ・飲み残しや他のごみを入れない。

防災について

- ②防災バッグをニーズに合わせ、中身を変えたものを販売する。

《回答》 市として、防災バックや非常用持出袋を販売することは考えていません。

ただし、各個人や家庭での備えは、「自助」の備えとして大切なこととなりますので防災訓練や防災講座でその必要性を多くの市民の方にお伝えしていきたいと考えています。

また、各個人や家庭で水や長期保存可能な食糧、簡易トイレなどを購入する際に、助成していますので、多くの市民の方にご利用いただきたいと思ひますし、市としてもこの制度をお知らせしていきます。

皆さんも、ご家庭での備えとして、ぜひこの制度を活用してください。

交通について

- ③登下校の交通安全のために、見守り隊を配置、街灯の調整や点検を行う。

《回答》 学校教育課では、白山市通学路安全プログラムに基づき、毎年学校関係者、道路管理者、警察などが連携し合同点検を実施したうえで、対策を講じており、その状況により、見守り隊の配置や道路管理者に依頼をしています。今後も引き続き関係機関と協力しながら、通学路の安全確保に努めて参ります。

居場所が欲しいグループ

中高生の居場所について

- ①ユースセンターなどの施設がほしい。

《回答》 第3次白山市総合計画の策定に際し、担当部署の検討を踏まえて考えていきます。

- ②居場所についての啓発を市の協力で広める。

《回答》 関係する課と居場所についての話し合いを行い、各地域で居場所が増えるよう取り組みます。現時点での「くつろぎスポット」としてだれもが無料で利用できる施設の情報を市ホームページに掲載しました。これからも情報を更新していきます。

中高生の施設の利用について

- ③気軽に学習できる場所を設けること。

《回答》 図書館や松任駅前の文化施設、各地区のコミュニティセンターなどで開館時間中に利用できる施設があります。施設のルールを守って気軽に利用してください。

- ④スポーツ施設の予約をネット等気軽にできるようにすること。

《回答》 令和8年度末に、インターネットにて体育館の空き状況を確認できるようになります。また、一部体育館にてインターネットにて予約をできるようになります。

- ⑤児童館を中高生も利用しやすくすること。

《回答》 児童館は、18歳未満の子どもが自由に利用できる施設です。市内の児童館では、中学生向けの行事（教室）の開催や職業体験の受け入れ、高校生と乳幼児親子との交流会を開催するなど、施設を訪れる機会をつくっています。施設の職員は、全ての来館者がルールとマナーを守り、安全に楽しく過ごすことができるよう配慮していますので、中高生の皆さんも気兼ねなく遊びに来てください。

- ⑥放課後に施設を利用できる時間のバスの便を増やすこと。

《回答》 コミュニティバス「めぐーる」は、地域住民の日常生活に密着した公共交通機関として、買い物や通院、通学などの利用を想定して運行しています。

しかしながら、全国的にバス運転手不足が深刻化しており、白山市においても同様の状況です。また、白山市は石川県全体の18%を占めており、県内で最も広い地域です。そのため、合計で20ルートという多くの路線を運行する必要があり、それぞれのルートごとに設定できるバスの便数には限界があります。

このような事情から、すべての市民の希望に応える運行を実現することは難しいですが、毎年可能な限りバスのダイヤやルートを見直し続ける方針です。